

(2) 東北



東北地域では、景気はこのところ持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感がみられる。

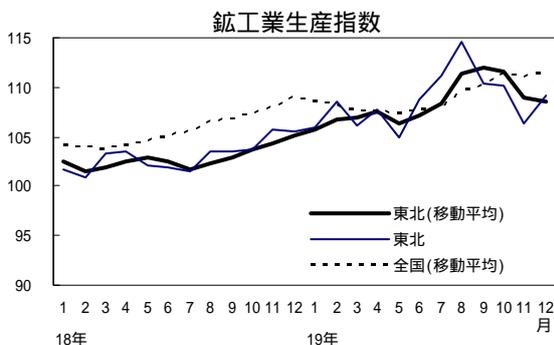
前回調査からの主要変更点

	前回(平成19年11月)	今回(平成20年2月)
景況判断	持ち直している	このところ持ち直しの動きが緩やかになっている
鉱工業生産	増加傾向	このところ横ばい
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向	依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、固定コンデンサやサーミスタ・バリスタは好調に推移したものの、モス型半導体集積回路や液晶素子、コネクタなどが低調に推移し、全体としては減少している。食料品・たばこは、たばこ、ビール・発泡酒、生菓子などが低調に推移したことから、減少している。情報通信機械は、携帯電話・PHSや外部記憶装置が低調に推移したものの、無線通信装置や入出力装置、デジタルカメラなどが好調に推移したことから、おおむね横ばいで推移している。一般機械は、半導体製造装置は好調に推移したものの、金型や産業ロボットが低調に推移したことから、減少している。電気機械は、時計やゲーム機向けの乾電池や工業用計測制御機器などが低調に推移したことから、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	19.3	11.0	3.1	0.7	30.2
食料品・たばこ	12.9	1.0	4.8	2.7	1.2
情報通信機械	11.6	3.6	0.0	0.0	11.2
一般機械	8.6	5.7	7.3	1.1	12.8
電気機械	5.8	6.1	4.3	3.2	0.1
鉱工業	100.0	4.5	3.1	0.1	2.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

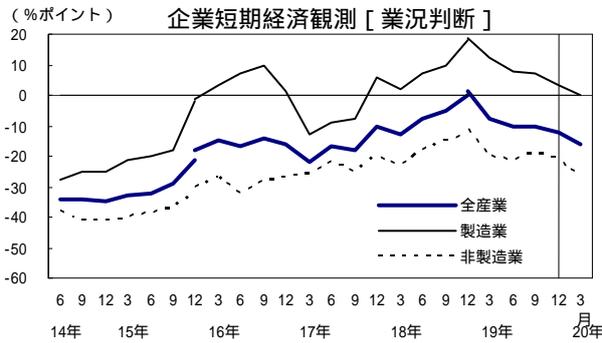
2. 10~12月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

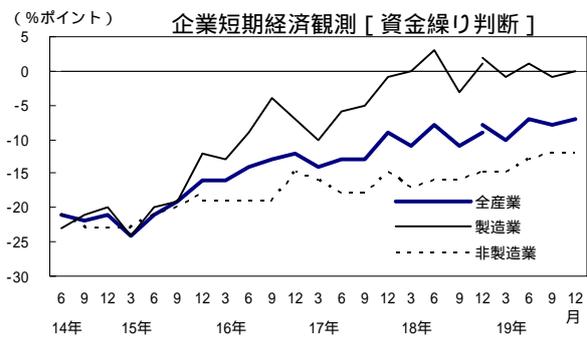
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

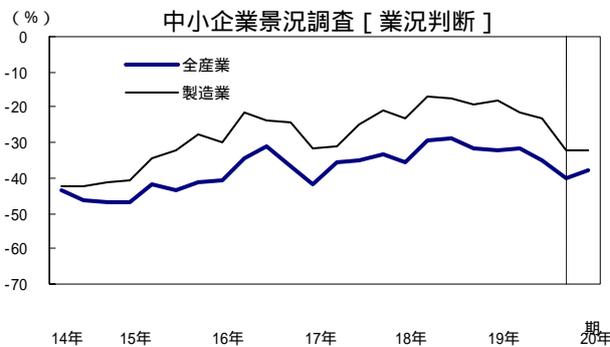
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

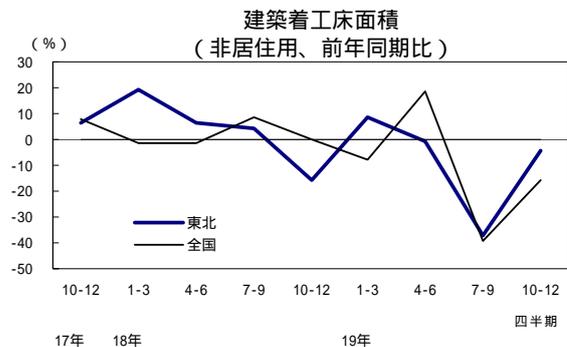
「資材だけでなく生活必需品の値上げもあるため、客は高額な住宅の新築やリフォームを組み合わせるようになってきている(建設業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	16.7	26.5(3.1)
製造業	22.8	67.0(4.0)
非製造業	10.9	16.9(1.2)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

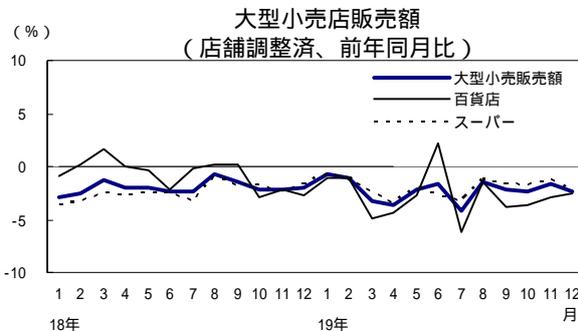
(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、飲食料品は催事や改装効果の影響で好調だったものの、衣料品は気温が高かった影響から秋冬物が振るわず、身の回り品もハンドバッグなどが振るわなかったことから前年を下回った。11月は、飲食料品は歳暮ギフトなどで好調だったが、衣料品、身の回り品が振るわず、前年を下回った。12月は、飲食料品が菓子や総菜、歳暮ギフトが好調だったものの生鮮食品が振るわず、衣料品は冬物が振るわず、身の回り品もクリスマスギフトで革小物などに動きがあったものの全般的に振るわず、6か月連続で前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の1月の売上高は前年同月比で3.4%減となっている。スーパーは、飲食料品は、酒が好調で、野菜・カップめんなどに動きがみられたものの、精肉、鮮魚などが振るわず、衣料品も気温が高かったことから秋冬物が振るわず、家庭用品も薄型テレビなどの家電は好調だったものの全般的に振るわなかったため、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

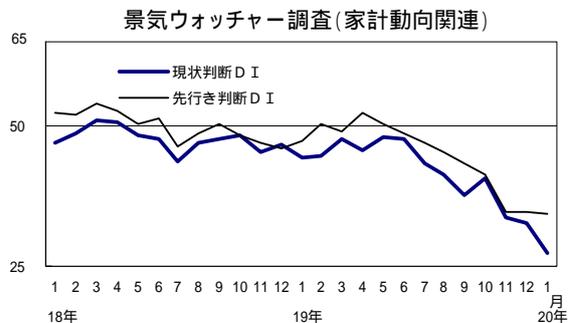
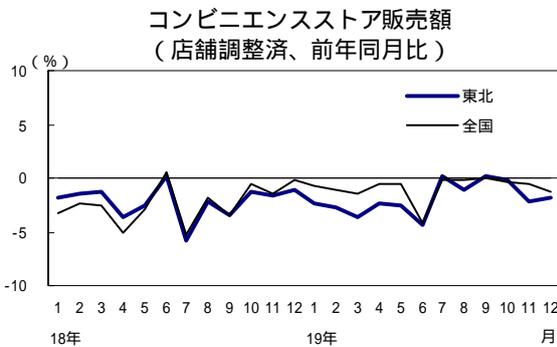
「1月2日の初売りは、前年より数を増やした福袋が好調で売上は前年を上回ったものの、総入店客数は減少した。初売りでも「手ぶら」で歩いている客が、特に若い年代が目立ったことなど、消費マインドの低下を感じさせる光景が見られた(百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.7	2.5	2.5	2.1
百貨店	2.4	1.7	4.0	3.0
スーパー	1.4	2.7	2.1	1.8
コンビニ	2.9	3.1	0.3	1.4
景気ウォッチャー	45.5	47.1	40.9	35.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

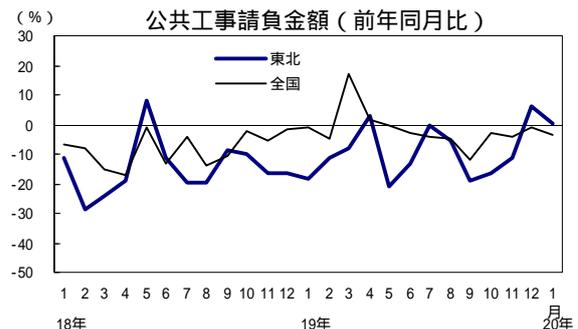
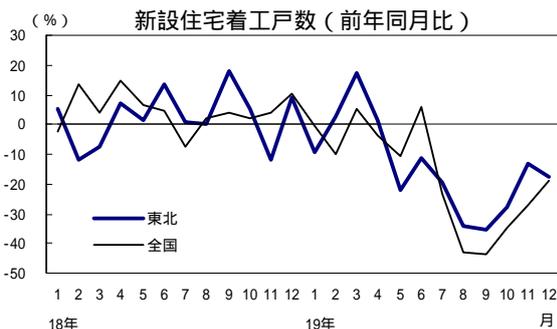
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

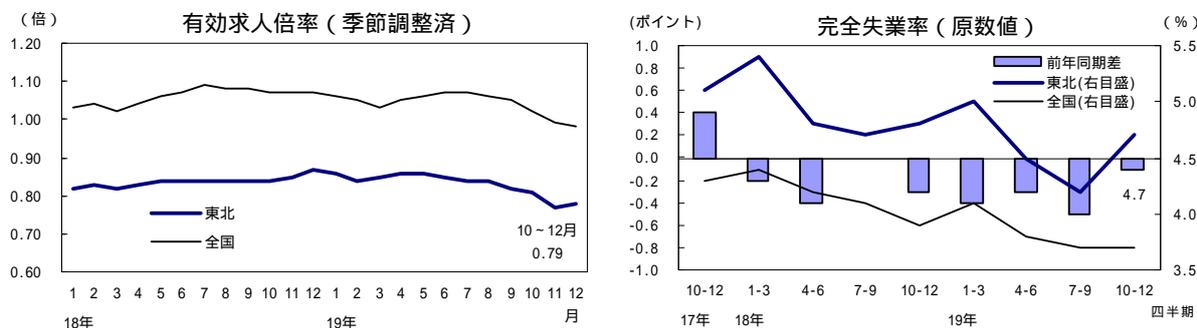
持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感がみられる。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

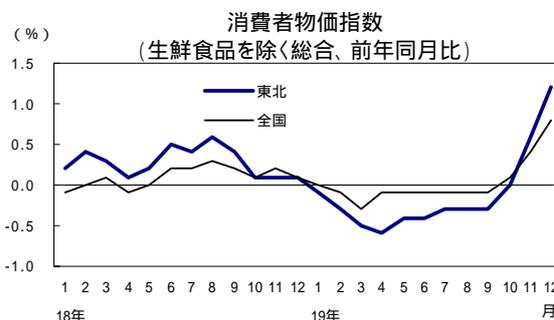
「新規求人数は、派遣・請負業における減少が主因となり、前年同月比 24.1%の減少となっている。建設業では、公共事業の減少や新規住宅着工の遅れ、減少から解雇者が発生しており、また、今後解雇を検討している会社もみられる(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。
1月に負債総額が大幅に増加している。

- (3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	233	250	218	242	75
(前年比)	3.6	6.8	14.5	8.0	2.7
負債総額	907	1,411	611	810	459
(前年比)	25.5	96.0	24.6	18.9	171.4



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・農業が主産業の地方であるが、米は豊作だったもののガソリン価格などの値上げが影響し、景気はあまり良くない。この状態は3か月前と比べて変わらない(スーパー)。

<先行き>

- ・先行き不安の状態が改善せず求人抑制する動きは強まるものの、流通業では出店計画に伴う採用が動き始めていることもあり、トータル的には変わらない(新聞社[求人広告])。

